

## 例会「1000の道 開運の道－徳川家康と小山の日光街道」報告

開催日：2023年5月3日(水、祝) 集合場所：JR水戸線、宇都宮線小山駅西口  
集合時間：9時00分～9時30分 開会式：9時30分～9時45分 終了後スタート  
コース・距離：小山駅→小山御殿広場・小山評定跡→須賀神社→小山宿・脇本陣跡→  
持宝寺→間々田八幡宮→龍昌寺→車屋美術館→乙女河岸跡→間々田駅 13km  
ゴール時間：13時40分  
参加者：19名(会員14名) 天候：晴れ

### ウォーキング状況等

今回の例会は県境の栃木県小山市。取り上げた理由は徳川家300年の安泰の道筋をつけた軍議「小山評定」が行われた場所で何かと開運が期待できること、もう一つは本会が目指している旧街道歩きとしての日光街道(江戸と徳川家康を祀る日光東照宮を結ぶ街道)で、県境の古河～小山歩きの一部になるからです。勿論、NHK大河ドラマ「どうする家康」ゆかりの地を歩く一環のウォーキングでもあります。実施中の水戸街道(江戸と水戸徳川藩を結ぶ街道)歩きとは異なった街道歩きになると考えて1000の道をベースに計画しました。

遠地にもかかわらず大勢の参加者に来て頂き、いざ出発。ビルが立ち並ぶ駅前通りを歩くと、すぐ新庁舎の小山市役所に着く。城址公園ではないので目立たないが、ここ一角に旧古河藩小山御殿跡と小山評定跡の碑がある。碑の前で皆さん感慨深く当時を思い巡らしていた。その後、家康が関ヶ原の戦いで戦勝祈願した須賀神社、また小山宿・脇本陣を見ながら、一路間々田宿に向かう。昼食を兼ねて立ち寄った間々田八幡宮は、芭蕉も訪れたらしく「古池や...」の句碑がある。旅先で病に倒れた村民が無事帰れたので、故郷の鎮守の池に住むカエルの姿に芭蕉の名句を重ねて後世に伝えたかったようだ。今では「無事かえるの像」も建っていた。

間々田宿の入り口には、家光の遺骸を日光に葬送する際、棺を仮安置した龍昌寺。そして、日光街道中間点で旅人の目印となった「間の榎」、後に「逢いの榎」となり縁結びの木になった場所へ。家康が小山評定の後、江戸に戻る前に参拝したと伝えられる泉龍寺、更に奈良時代に寺院の瓦を製造した国史跡乙女不動原瓦窯元跡まで歩みを進めた。最後は江戸時代に物資の集散地として賑わった乙女河岸跡だ。小山評定後、家康は乙女河岸から乗船して江戸に戻り、関ヶ原へ向かったとされている。今は思川岸辺の小山乙女河岸歴史公園として市民の憩いの場になっており、ここで皆さん十分休息して、ゴールの間々田駅に向かいました。

日光街道は21の宿場がある約140kmの街道で、徳川幕府が直接管理した5つの陸上交通路のひとつ。奥州街道と重複しているため、参勤交代の大名通行が多く賑わったようだ。そのうち2つの宿場間を歩いただけだが、その地域の歴史と文化を垣間見た印象を持つ。中でも、「天下分け目の関ヶ原ではなく、天下分け目の小山評定」という地元有識者の言葉は言い得て妙だと感心する。何はともあれ開運の道を歩いたのだから、本会のみならず参加者皆様の今後の発展が期待できるかもしれない。計画中の古河宿～間々田宿歩きだけではなく、宇都宮、日光への道も歩きたくなりませんでしたか。賛同者がいれば計画しますので、ご期待ください。(戸田)